

公益信託世田谷まちづくりファンド

第33回助成事業 審査講評

はじめの一步部門

< 1-1 上野毛ダンディーズ >

- ・経験豊富なアクティブシニアの皆さんが地域でチームを作り活動すること自体に価値があるのですが、次のステップとしてこの活動がきっかけになり他の団体や地域に皆さんとコラボがたくさん生まれることを期待しています。

< 1-2 桜上水子育てグループさくらっこ >

- ・子育て支援サービスは充実してきていますが、当事者主体の温度ある居場所やつながりはかけがえのない価値があると考えます。まずは想いをカタチにする第一歩を楽しんでください。桜上水エリアの子育て家庭のつながりが育まれることを願っています。

< 1-3 雨庭ネット世田谷 >

- ・豪雨対策を行政任せにせず、市民自ら取り組む意義は大きいです。地域共生のいえのようにプレートを掲げての見学会やワークショップは、世田谷ならではのスタイルと思います。誰にでも今すぐできる手法として、多くの人に広がることに期待しています。

< 1-4 バイリンガル絵本クラブ “Marry (マリー)” >

- ・英語の絵本があることで、多様な国籍の親子が自然と一緒に遊べる、居られる場が生まれることを期待します。「参加型交流会」と応募用紙に記載がありますが、読み聞かせ会でも様々なコミュニケーションが生まれると良いですね。

< 1-5 特定非営利活動法人 日本セラプレイ協会 >

- ・子育て支援が充実していても、福祉ネットワークに接点がなく孤立している親子は存在しています。そのような親子こそ地域にしっかり繋げていくことが必要であるという課題意識のもと、専門的視点を持つ担い手の育成も含めて取り組んでいく点を大いに評価しました。

< 1-7 Team つるまき Green >

- ・子どもたちの成長をいつも見守ってくれていた桜の木が伐採されたことには、深い喪失感を抱かれたと思います。子どもたちや保護者、小学校関係者がともに身近な自然に触れ、その大切さを実感できる機会は非常に意義深いものです。子どもたちにとって貴重な体験となるでしょう。